

フロンティアスクール用中間報告書

都道府県名	富山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	富山市立月岡小学校								教員数
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	
学級数	2	2	2	2	3	2	1	14	
児童数	76	80	75	73	87	60	3	454	19

実践研究の概要

1 主題（テーマ）

自ら学び、確かな学力を身に付ける子供の育成
～個に応じた指導法や形態の工夫・改善を求めて～

2 内容と方法

(1)実施学年・教科

- ・全学年・算数科
前年度より少人数指導を行っており、基礎的・基本的内容の定着を目指して個に応じた指導の研究を継続するため
- ・全学年 生活科・総合的な学習の時間
自ら課題をもち自ら考える力を子供たちに養う必要があるため

(2)年次計画

平成14年度

テーマ 自ら学び、確かな学力を身に付ける子供の育成
～個に応じた指導法や形態の工夫・改善を求めて～

仮説

小中を見通して、個に応じた指導法や形態を工夫することによって、子供たちは基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。

生活に根ざした教材や個に応じた教材との出会い方やかかわり方を工夫・開発することにより、子供たちは自分の課題に向かって見通しをもって取り組むことができる。

研究内容・方法

小中を見通した指導の在り方について小中合同研修会や授業参観・TT授業を行いながら、小中の教員が共に考え合う。

個人カルテの作成・少人数指導・選択コース別指導など、個に応じた指導法や形態の在り方を授業研修を通して探る。

生活に根ざした教材の開発や、個に応じた教材との出会い方・かかわり方の工夫を授業研修を通して探る。

平成15年度

テーマ 自ら学び、確かな学力を身に付ける子供の育成
～個に応じた指導法や形態の工夫・改善を求めて～

仮説

実態を的確に把握し、実態に応じた単元構想や個に応じた指導法・形態を工夫することによって、自ら学ぶ意欲を高めながら、子供たちは基礎的・基本的な学力をしっかりと身に付けることができる。

一人一人に育てたい力を明確にし、評価を指導に生かしながら個に応じた支援や指導を工夫することにより、子供たちは課題に向かって主体的に追究し、見方・感じ方・考え方を深めていくことができる。

小中で9年間を見通した系統的な指導を工夫することにより、子供たちはより確かな学力を身に付けることができる。

研究内容・方法

個人カルテなどによる評価を指導に生かし、教材開発や単元計画を工夫するとともに、少人数指導・選択コース別指導・個別指導など個に応じた指導法や形態の在り方を授業研修を通して探る。

自分のこだわりのある課題を明確にもつための単元構想を工夫し、自らの高まりを振り返り、主体的に追究していくため支援・指導の在り方を授業研修を通して探る。

小中を見通した指導の在り方を小中合同研修会や授業参観・TT授業を行いながら探り、それぞれの学校の指導に生かす。

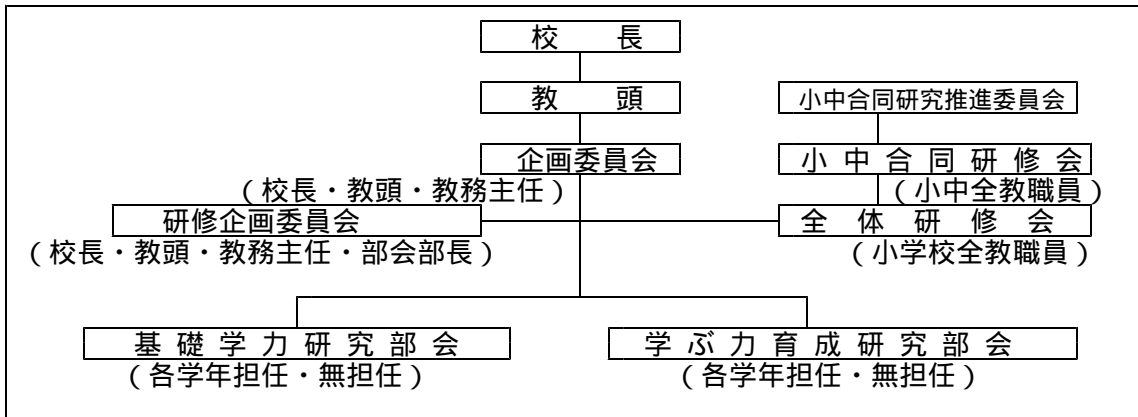
平成16年度

テーマ 自ら学び、確かな学力を身に付ける子供の育成
～ 個に応じた指導法や形態の工夫・改善を求めて～

仮説
小中を見通した指導の在り方や、個に応じた指導法・形態を工夫することによって基礎的・基本的な学力をより確かなものとするとともに、自ら学び自ら考える力を身に付けることができる。
地域の中で積極的に人とかがわりながら学ぶ場や自分を振り返る場の設定を工夫することにより、自分の成長を自覚し、意欲的に学び続けることができる。

研究内容・方法
これまで積み重ねてきた小中9年間を見通した指導の在り方を見直し、小中連携の在り方を明確にする。
個人カルテ・評価カードなど評価を生かした指導の在り方、少人数指導・選択コース別学習・個別指導など個に応じた指導法や形態の在り方を授業研修を通して探る。
地域の人々等と積極的にかがわりながら学び、自分の高まりを振り返る場の設定の仕方、自己存在感や自己有用感を味わう指導の在り方を授業研修や様々な協議会を通して探る。

(3) 研究体制



平成15年度の成果及び課題

成果

- 1 **基礎的・基本的な学力の定着を目指す、教材・単元計画、個に応じた指導法や形態**
 - ・ 個人カルテやレディネステスト等で児童の実態を把握した上で、子供が自分の力で問題解決でき、算数のよさが味わえるような教材や単元計画を工夫することが、子供の意欲を高め、ひいては基礎学力を高めることにつながることが分かった。
 - ・ 学習を進める中で、タイミングをとらえて教師が評価を行うことにより、個に応じた手立てが明確になり、少人数指導・TT指導・個別指導を通して一人一人の基礎学力を高めることができた。
 - ・ 読書タイム(全校児童、週2回15分ずつ)、さわやか学習タイム(全校児童、週1回15分)、ちょこっとタイム(学習の遅れている児童や希望する児童、週1回25分、夏休み3日間程度)などで、自分の力に応じて落ち着いて学習できる場を設定したことによって、子供たちの学習意欲や態度を高めることができた。
- 2 **主体的に追究し、見方・考え方・感じ方を深めていく支援・指導の工夫**
 - ・ 自然の不思議さや命の尊さなど、一人一人が心を動かされる対象と出会えるように単元構想を工夫することで、こだわりのある課題を見つけ、その子らしい追究を目指していけることが分かった。
 - ・ 話合いの場では、自分の取組だけでなく、自分自身の取組に対する自分の思いを出し合うことによって、子供たちは友達によさや自分の生き方を深く見つめることができた。
 - ・ 継続的に活動カード、振り返りカードを書いていくことにより、子供たちは自分の歩みを自覚し、自信を高めて意欲的に追究することができた。
- 3 **小中で9年間を見通した系統的な指導について**
 - ・ 小中相互授業参観、小中TT授業、小中合同研修会を行って共に話し合うことにより、小中で共通した学力の問題点(話す・聞く・読む・書く力の不足)が明らかになり、それぞれの学校で重点的に指導することができた。年度末の調査では、それぞれの力の高

まりを、教師・保護者共に実感している。また、学校だけでなく、保護者、地域の方々とみんなで子供を育てることを目指して、テーマを「みんなで子育て」と決めた。小中合同教育講演会、小中合同子育て懇談会、研究発表会のシンポジウムなどを開催した結果、意識が高まりつつある。

課題

- ・ 子供たちが、自分をしっかりと見つめ、自分の力の高まりを自覚できるとともに、他に存在や価値を認められることが、自ら学び、自ら考える「生きる力」の基盤となる。自己存在感や自己有用感を味わえるような支援・指導の在り方を、学校だけでなく、保護者・地域の方々と共に探っていきたい。

学力把握のための学校の取組

- ・ 県小教研学力調査（年1回4月）
3～6学年の4教科（3年は算数、国語のみ）で基礎・基本の定着の実態を把握・分析し、授業の工夫・改善に生かす。
- ・ 個人カルテに記録することを通して、個に応じた指導に生かす。
3種類： 基本的な生活習慣・生活能力「つきおかつ子ふりかえりカード」
算数科の基礎的・基本的内容（数と計算領域）
自ら学び自ら考える力
- ・ 意識調査「好きな勉強調べ」や保護者の評価カードで学習意欲や態度の実態を把握し、授業や学級経営の工夫を図る。

フロンティアスクールとしての成果の普及

* 研究会の開催予定

- 1 日時 平成16年11月25日（木）
- 2 場所 富山市立月岡小学校・富山市立月岡中学校
- 3 テーマ みんなで子育て
学校・地域の中で、人とかかわりながら自ら学ぶ子供を目指して（予定）
- 4 対象 富山県内の小中学校教員、本校保護者、地域住民
- 5 参加方法 要項添付の参加申込書を FAX で送付、または本校ホームページ上でEメールにての申込み

* 研究成果普及のための HP 作成（<http://www.tym.ed.jp/sc118/>）と今後の予定

- H15年 5月 ... 15年度の研究計画、個人カルテを載せる
- H16年 3月 ... 15年度の研究成果を載せる
- H16年 5月 ... 16年度の研究計画、個人カルテを載せる
- H16年 9月 ... 研究会の要項を載せる
- H17年 3月 ... 16年度の研究成果を載せる

* フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績

- ・ 富山市教育センター研究員としても確かな学力についての研修を行い、本校の事例を教育センター発行の研究紀要に載せ、県内の学校に知らせている。
- ・ 研究成果をまとめ、富山市教務主任研の部会研修にて他校へ知らせている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図が工作 家庭
 体育 その他（総合的な学習の時間）
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無